

令和3年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(幡羅小学校)

平均正答率

(単位 %)

教科	国語			算数		
学年	小4	小5	小6	小4	小5	小6
幡羅小	61.7	64.2	59.8	68.8	71.1	59.6
埼玉県	58.0	56.7	58.6	69.9	61.6	60.9

質問紙調査より

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値

(単位 %)

		小4		小5		小6	
質問事項		幡羅小	埼玉県	幡羅小	埼玉県	幡羅小	埼玉県
生活習慣	・脱いだ履き物のかかとをそろえる	80.9	83.3	93.6	83.6	97.1	86.8
	・相手の顔を見て、はっきりあいさつをすることができる(小4) ・自分からはっきりあいさつをすることができる(小5、小6)	69.1	78.5	93.6	78.2	83.9	78.0
	・相手の気持ちを考え、やさしい言葉づかいができる	89.7	84.6	92.3	84.6	88.2	84.1
学習習慣	・学校の宿題をしている	94.1	94.9	98.7	96.2	95.6	96.1
	・学校の授業の予習や復習をしている	66.1	69.3	85.9	69.9	70.6	70.0
	・平日、学校の授業時間以外に1時間以上勉強している(塾等を含む)	54.4	51.1	85.9	58.3	63.2	64.9
学習等への関心	・勉強することが楽しい、好き(勉強する理由として)	69.1	70.0	77.0	63.8	54.4	57.8
	・勉強は将来の進学や就職に役に立つ(勉強する理由として)	86.8	88.3	91.1	88.7	91.2	90.8
	・地域の歴史や自然に関心をもっている	75.0	77.5	88.5	70.9	58.8	63.7
その他	・自分には、よいところがある	89.7	80.2	88.5	77.9	75.0	69.8
	・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	82.3	80.3	83.3	79.9	83.9	75.8
	・将来の夢や目標をもっている	95.6	89.0	96.1	88.3	89.7	83.4

幡羅小の「よかった点 (○)」と「課題 (●)」

【国語】

4年生

○分類・区別集計結果では、全ての項目で県や市より平均正答率が上回っている。特に漢字の読み書きや主語・述語など文の構成を正しく理解している。

●記述式の問題(困難度レベル7-A)では、県や市より2倍以上の正答率にはなっているが、35.3%と低い。また、物語に書かれている大事な言葉を書き抜いたり、内容を理解して当てはまる言葉を書き抜いたりする問題の正答率から文章読解力に課題が見られた。

5年生

○平均正答率が県より7.5%上回っている。特に、目的に応じて理由を挙げながら自分の考えを書く問題(困難度レベル8-A)では、県より52.3%も高く、自分の考えを明確に書くことができる。

●類義語を選択する問題(幡羅小9% 県14%)と適切なことわざを選択する問題(幡羅小66.7% 県72.6%)の正答率が県よりも低く、言葉の特徴や使い方や言語文化に課題が見られた。

6年生

○令和2年度からの学力の伸びが「3」と大きく、正答率が県や市よりも上回っている。特に、登場人物の考えを読み取る問題(困難度レベル6-B)では8.9%、自分の考えをまとめて書く問題(困難度レベル9-B)では25.7%正答率が県より上回っている。

●主語と述語を書き抜く問題(幡羅小11.8% 県32.1%)や類義語・対義語を選択する問題(幡羅小11.8% 県24.0%)での正答率が低い。また、資料を用いることによる効果を選択する問題(幡羅小22.1% 県28.1%)での正答率が低い。言葉の特徴や使い方について理解することや資料を活用することに課題が見られた。

【算数】

4年生

○重さの単位について換算する問題(県65.1% 幡羅小91.2%)や記述式の問題(県22.4% 幡羅小25%)で県よりも正答率が高い。また、無解答率の平均(幡羅小 約1.5%、県 約3.2%)が低く、問題に意欲的に取り組んでいる。

●図形の特徴や性質への理解についての問題(図形)や表やグラフに関する問題(データの活用)についての正答率が県よりもやや下回っている。また、分数や数直線についての理解にも課題が見られた。

5年生

○令和2年度からの学力の伸びが「4」と大きく、平均正答率が県より9.5%上回っている。また、分類・区別集計結果でも全ての項目で県や市よりも上回っている。

● 1m^2 と 100cm^2 の正方形を比較する問題(困難度レベル8-C)では、唯一、県の正答率を下回っており、面積について理解することに課題が見られた。

6年生

○数と計算の領域の平均正答率では、県や市よりも上回っている。また、無解答率の平均(幡羅小 約1.75% 県 約4.74%)が低く、最後まで粘り強く問題に取り組んでいることが分かる。

●円周や角の大きさ、合同な三角形をかくための必要な条件などの問題(図形)では、正答率が県より下回っており、課題が見られた。また、記述式問題(幡羅小 2.9% 県5.7%)では、正答率が低かった。

【質問紙】

○「規律ある態度」達成目標では、36項目中29項目で県より上回っていた。

●「勉強することが楽しい、好き」について、肯定的な回答をした児童の割合が少ない。また、「平日、1時間以勉強している」について、「している」と回答した児童の割合が少ない。

課題への取組・改善策

【国語】

・朝学習(ドリルタイム)を活用し、言語事項(主語・述語、修飾・被修飾、指示語、ことわざ、同音異字、同音異義語、慣用句、敬語など)に対する習熟を図る。

・学校や家庭での読書に親しむ機会や時間を増やし、登場人物の心情を読み取ったり、情報を取捨選択したりする力を養う。

・週末の宿題でコラム学習に取り組ませ、自分の考えを条件に合わせて書くことができるようにする。(読売 KODOMO 新聞や読売ワークシート通信を活用)

【算数】

・「幡羅スタンダード」に沿った授業を行い、授業の進め方や学習規律を共通理解し、全職員が同じように授業を進められるようにする。

・「夕焼け計算道場」で基礎基本の定着を図る。

・ノート指導案を充実させ、自分の考えを順序立てて書けるように指導する。

【その他】

・ICT機器を活用した授業や課題配信等を積極的に行い、児童の学習意欲を高めたり、学習内容をより定着させたりすることができるようにする。その際、情報モラルも高める指導もしていく。また、家庭学習の習慣を身につけさせるため、「家庭学習の手引き」を配布したり、良い取組を紹介する「家庭学習コーナー」を各教室に設置したりするなどし、家庭学習への意識を高めていく。

